

# トビウオ通信 (R5 第8号)

https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

## 《令和5年秋季におけるケンサキイカ漁況予報》

山陰沿岸での秋季（9月～12月）におけるケンサキイカの漁況は、日本海南西海域における資源状況が関係していることが知られています。その情報を基に、浜田の沖合底びき網漁業（8月）と県内各地におけるいか釣漁業（9月～12月）の漁獲量の関係からケンサキイカの漁況予測を行いました。

### 漁況予報の概要

対象魚種:ケンサキイカ秋季来遊群(秋季:9月～12月)

対象漁業:いか釣漁業(5トン未満船、5トン～30トン船)

対象地区:出雲地区(松江～出雲)、石見地区(大田～益田)、隠岐地区(島前～島後)

漁況予測: 1日1隻当りの漁獲量は、不漁であった前年に比べて、出雲地区では下回り、石見地区では同程度、隠岐地区では上回るが、不漁前の平成30年以前の水準には及ばない。

### 予測に関する情報

秋季に山陰沿岸に来遊するケンサキイカ（秋季来遊群）は、来遊前は日本海南西海域の大陸棚上に広範囲に分布しています（図1）。

夏季（8月）に九州から山口沖で浜田の沖合底びき網漁業（以下「浜田沖底」）により漁獲されるケンサキイカは、秋季（9月～12月）に沿岸域に来遊するものと同一資源と考えられています。そして、実際に浜田沖底といか釣漁業でのケンサキイカ

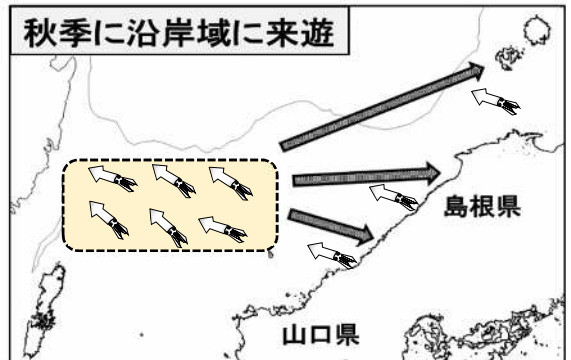


図1 秋季におけるケンサキイカの来遊イメージ。大陸棚上に分布していたケンサキイカは秋季に沿岸域に来遊する。

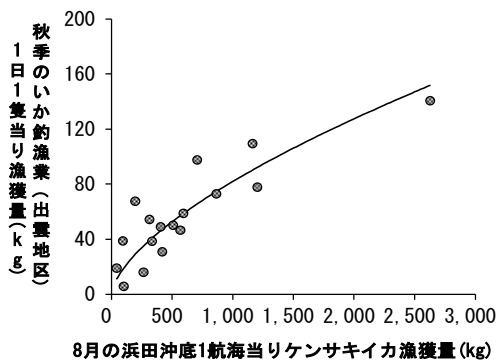


図2 浜田沖底（8月）といか釣漁業（秋季、出雲地区）の漁獲量の関係。

浜田沖底で漁獲されるケンサキイカの量が多いといか釣漁業の漁獲量が多い関係にある。石見地区と隠岐地区も同様の関係がみられる。

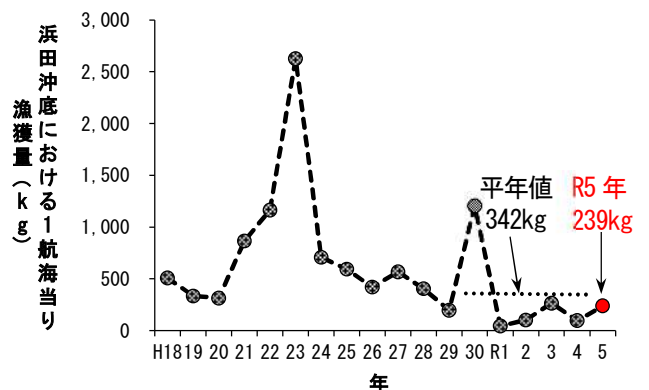


図3 8月の浜田沖底における1航海当りケンサキイカ漁獲量の推移。

カの漁獲状況には強い関係性がみられます（図2）。

令和5年8月の浜田沖底における1航海当りケンサキイカ漁獲量は239kg（図3）で、前年の95kgを上回りましたが、平年値（平成30年～令和4年の5年平均：342kg）を下回りました。このことから、令和5年秋季に沿岸域に来遊する前の日本海南西海域のケンサキイカの資源状況は、近年同様の低い水準にあると考えられます。

### ケンサキイカの漁況予報

先述の情報を基に、8月の浜田沖底の1航海当りケンサキイカ漁獲量と各地区のいか釣漁業の1日1隻当りの漁獲量の関係（図2）から、以下のとおり各地区の今後の状況を予測しました（図4）。

#### 【出雲地区（松江～出雲）】

令和5年9月～12月の1日1隻当りの漁獲量は約33kgと予測され、前年（39kg）を下回り、不漁前の平成30年の水準には及ばないと考えられます。

#### 【石見地区（大田～益田）】

令和5年9月～12月の1日1隻当りの漁獲量は約40kgと予測され、前年（40kg）並みで、不漁前の平成30年の水準には及ばないと考えられます。

#### 【隠岐地区（島前～島後）】

令和5年9月～12月の1日1隻当りの漁獲量は約28kgと予測され、前年（22kg）を上回りますが、不漁前の平成30年の水準には及ばないと考えられます。

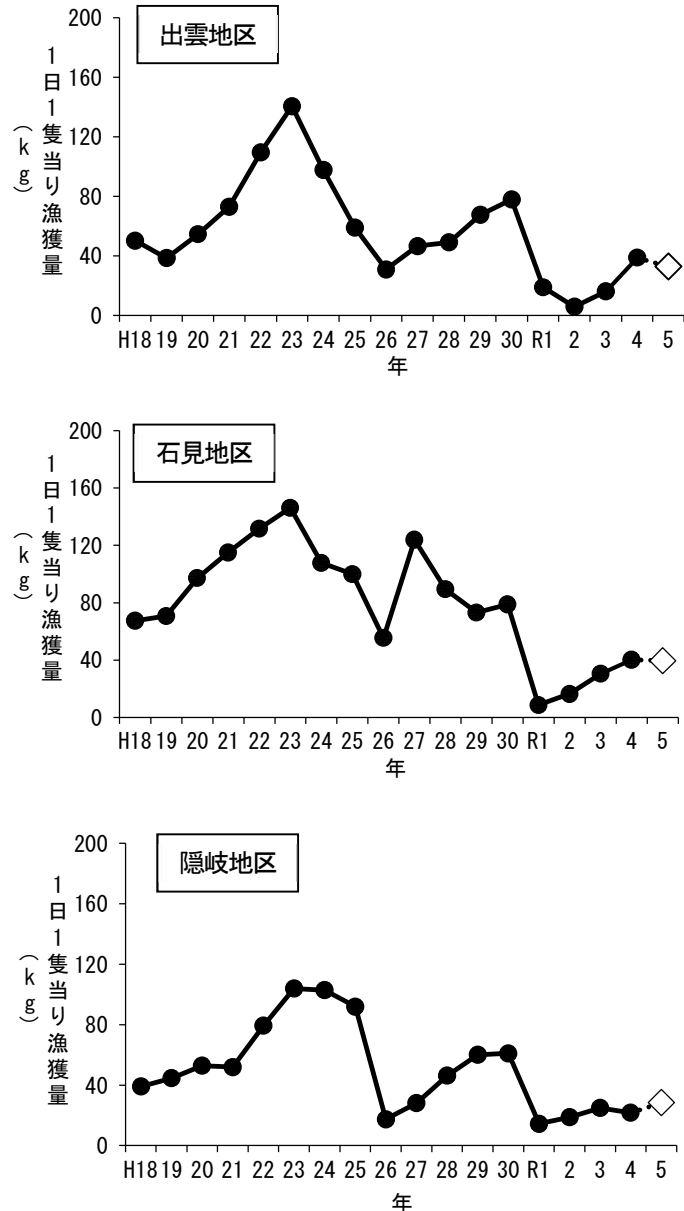


図4 各地区のいか釣漁業における1日1隻当りの漁獲量（9月～12月）の推移。令和5年は予測値。